

柳井市の田布施川支流にシログワイ *Eleocharis dulcis* (Burm. fil.) Trinius と ホザキノフサモ *Myriophyllum spicatum* L.

南 敦

シログワイは本州ではごく稀な植物であるが、1977年10月27日柳井市余田堀川で大群生地を見つけていた。それが最近殆んどなくなり心配していた。1990年9月18日柳井市余田連台寺の田布施川支流(水路)で幅3~5m、長さ20mにわたって非常に生育のよい群生地を見つけた。地理的には堀川と3km位しか離れていないが水系は全く別である。山口県では堀川について第2の産地となる。また、その川(水路)にはホザキノフサモがかなり多数あり、ちょうど4つの花が開いていた。ホザキノフサモは山口県の第3の産地である。まわりにマコモが大群生している。前記植物の証拠標本は近日中に山口県立山口博物館に納入の予定である。

山口県阿知須町の池沼・干拓地などの新 知見

南 敦

1990(H.2).7.22、山口県野外植物研究委員会では標記の場所〔5万分の1地形図：小郡、宇部東部〕を採集し、若干の知見を得たので報告する。御案内をいただいた塩見隆行、末広雄次の両先生に深甚の謝意を表わす。

また、御参加の皆様には厚く御礼申し上げます。

(1) 青畑の無名の池

ジュンサイが池いっぱいに見られた。ノタヌキモがあるといわれたが当日は水位の関係で見られなかった。ジュンサイの存在は最近の山口県では稀である。ノタヌキモも他に知らない。

(2) 万年池

① 水中からゴキヅル

広い池のあちこちで池の岸に近い深さ30~50cmの水中でよく根を出し(ヤナギのように)茎は岸辺のヒメガマやタチヤナギなどからんでいた。ゴキヅルは非常に生育がよく大きな葉を出し高さ60~80cmであった。見つけた時はゴキヅルとわからず、帰化植物の何かと思い、我々は「ミズウリ」と冗談を飛ばしていた。

② 水中にメリケンムグラ

開花しているものが路傍(陸地)の斜面で見られたが、間もなくして水中で群生しているのが見つかった。水中で見つかったときは、最初何かわからなかった。はじめから水中でふえたものか、水が増えて水中に没したのかは不明だが、水中での生育状態は非常によかった。

③ ミクリスゲ やや日陰の路傍に群生していた。

(3) 阿知須干拓地

① ヒメウキクサ

干拓地内の水路(殆んど流れていなかった)にたまっていた。純群落であった。山口県では今まで柳井、岩国、萩、秋穂の記録がある。

② ハマハナヤスリ

干拓地内の通路に見られた。

ヒメウキクサ、ハマハナヤスリは塩見隆行発表(H.2.7.21)の論文になかったものである。

◎主な参考文献

①塩見隆行(1990):阿知須干拓地のフロラ

②山口県高教研生物教育研究資料 第7号(1983)

山口県にもイヌタヌキモ

南 敦

1990年9月23日、山口県熊毛郡平生町八海橋側の沼にはヒシが密生していたが、その間に非常にたくさんの浮いているイヌタヌキモ *Utricularia tenuicaulis* Miki を見つけ採集した。季節的にまだ少し早い長だ円形の萌芽があったこと、水中茎の直径が大体0.7mmで1.2mm以上のものはなかったことなどでイヌタヌキモと同定した。この沼は国土地理院地形図〔柳井〕左上で田布施川下流の側である。

1990年9月24日、柳井市古開作山口県立柳井高等学校のコウホネの植えてあるポリバケツにもイヌタヌキモがあった。イヌタヌキモを入れた者は誰もいないと思う。22日~24日イヌタヌキモがありそうな水系を歩いたが、それは案外なくヒシとホザキノフサモが多く見られた。これについては別に報告する。証拠標本は山口県立山口博物館に納入する予定である。

末筆ではあるが貴重な文献の御恵送を頂いた角野康郎先生に心から厚く御礼申し上げます。

◎主な参考文献

山本功人・角野康郎(1988):植物地理・分類研究 36:72-75.